

Title	フランス語における女性の可視化及び中立化と語学教育
Sub Title	Visualization of women and neutralization in French, and teaching French as a foreign language
Author	中尾, 和美(Nakao, Kazumi)
Publisher	慶應義塾大学外国語教育研究センター
Publication year	2022
Jtitle	慶應義塾外国語教育研究 (Journal of foreign language education). Vol.18, (2021.) ,p.1- 18
JaLC DOI	
Abstract	Visualization of women in French language is a political issue first raised in Quebec in 1970s through the promotion of gender equality in society. For the sake of the fair representation of genders, the three following linguistic policies were adopted in Quebec: feminization of job titles (professeur → professeure), syntactical feminization by use of doublets in the sentence (Chère lectrice, cher lecteur) and neutralization by using neutral expressions (le juge → le tribunal). These three strategies are also adopted in Switzerland, Belgium and France, but in different ways. In Quebec and Switzerland, where the bottom-up feminism movement demanded the gender equality, it is recommended to use not only the feminization of job titles but also the syntactical feminization and the neutralization to avoid the use of the generic masculine, whereas in Belgium and France, where the feminization was first claimed by female politicians, the feminization of job titles is the main issue. New feminine job titles, nowadays officially acknowledged in the above four regions, are used in FLE textbooks published in France as well as in French textbooks for university students published in Japan.
Notes	研究論文
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA12043414-20210000-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

フランス語における女性の可視化及び 中立化と語学教育

中 尾 和 美

Abstract

Visualization of women in French language is a political issue first raised in Quebec in 1970s through the promotion of gender equality in society. For the sake of the fair representation of genders, the three following linguistic policies were adopted in Quebec: feminization of job titles (*professeur* → *professeure*), syntactical feminization by use of doublets in the sentence (*Chère lectrice, cher lecteur*) and neutralization by using neutral expressions (*le juge* → *le tribunal*). These three strategies are also adopted in Switzerland, Belgium and France, but in different ways. In Quebec and Switzerland, where the bottom-up feminism movement demanded the gender equality, it is recommended to use not only the feminization of job titles but also the syntactical feminization and the neutralization to avoid the use of the generic masculine, whereas in Belgium and France, where the feminization was first claimed by female politicians, the feminization of job titles is the main issue. New feminine job titles, nowadays officially acknowledged in the above four regions, are used in FLE textbooks published in France as well as in French textbooks for university students published in Japan.

1. はじめに

言葉は変化する。社会や意識など言語外的要因による変化の場合、外国語教育はそれにいつどう対応していくべきか。本稿では、フランス語において変わりつつある「性」の扱いを取り上げ、言語変化と教育への適応について考察する。

フランス語の名詞は、男性・女性いずれかの文法性 (*genre*) を持つが、職業・肩書・役職・官位を示す名詞（以下特に区別の必要がない場合はまとめて「職業名」と表記）は、通常指示対象の生物性 (*sexe*) に一致した形式をとる。女性形は原則として、男性単数形の語尾に *e* を

付加して作る (étudiant 「男子学生」→ étudiante 「女子学生」) が、女性形が欠落している名詞もある。また、男性複数形の指示対象は男性のみとは限らない。(1) の Les Japonais は日本人女性を含み、(2) の Tous les candidats は女性をも含むうる。

- (1) Les Japonais mangent du riz. 「日本人は米を主食とする」
- (2) Tous les candidats ont été reçus. 「候補者は全員合格した」

初級文法の授業では「女性形がない職業名もある」、「男女が混在する場合には常に男性形を使う」と教えるが、これらの文法規則はしばらく前から議論的になっている。実際、女性形の不在、男性形の総称用法が女性軽視であるとして「女性の可視化 (visualisation des femmes)」が推奨されており、具体的には「語彙的女性化 (féminisation lexicale)」または「統語的女性化 (féminisation syntaxique)」がフランス語圏の国々で試みられている。前者は、女性形が欠落している職業名に女性形を新たに創出する手法であるのに対して、後者は、男性と女性を示す形態を併用して男女混成の指示対象であることを明示する手法である。加えて、性そのものを見えなくさせる「性の不可視化・中立化」も注目されてきている。これには、通性名詞¹ (nom épïcène) や中性表現 (formulation neutre) の使用に加えて、新たなノンバイナリー (non-binaire) な代名詞 *iel*² などの創出が挙げられる。

本稿では、フランス語の女性形を取り巻く問題を「言語における女性の可視化及び中立化」という観点から考える。2節ではこの問題の歴史的背景を、3節から7節ではフランス語圏の国々における語彙的女性化、統語的女性化及び中立化を概観する。具体的には、カナダのケベック州、ベルギーのフランス語圏、スイスのフランス語圏、及びフランスを時系列に沿って概観する。8節では、この変革がフランスで出版された外国人学習者向けの教科書及び日本で出版されている大学生向けフランス語教育の教科書でどのように反映されているかを検討する。

2. 歴史的背景と社会の変化

名詞の女性形欠落は、言語そのものに内在する問題ではない。ambassadeur から ambassadrice を、écrivain から écrivaine を派生させることは形態上問題ない。実際、かつては使用され、その後消えた女性形は少なくない³。これは、多くの場合政治的な問題に起因する。17世紀から19世紀にかけて、アカデミー・フランセーズを中心に「男性化 masculinisation」が意図的に行われた。形容詞などを位置的に近い名詞に一致させる「近接性の規則 (règle de proximité)」を廃し、常に男性名詞への一致を優先させたこと、形容詞を照応する際に常に *le* を使うことなど、現代まで保持されている男性優位の文法規則は17世紀に制定された (Cerquiglini (2019))。Vaugelas が「男性の文法性 (genre masculin) の方が高貴であるため、男性と女性がともに使

われた場合には、男性の方が優位に立つべきだ⁴」と述べたことはあまりにも有名である。18世紀には、職業名などの女性形が本人ではなく夫の職業を表す用法 *féminin conjugal* が一般化した。その結果、中世には女性のパン職人を指した *boulangère* がパン職人の妻を指すことになった。このように人工的な言語改革の結果、一部の職業名は、20世紀のフランス語では女性形が公式には欠如、もしくは男性形とは異なった意味を持つ⁵という事態につながった。20世紀後半、社会の変革、意識の変化とともに女性が参政権を獲得し、法的にも男女平等が謳われて女性の社会進出が進むと、新たに女性形を作るという機運が様々な地域で起こった。しかし、この動きは、フランスではなく、Cerquiglini (2019) の言葉を借りれば、まず「辺境 (*périphérie*)」から始まった。

3. ケベック州

3.1. 女性の可視化① 語彙的女性化

女性の可視化に最も早く対応した地域は、カナダのケベック州である。カナダで唯一フランス語のみが公用語であるケベック州では、1960年代の「静かな革命」に伴い女性の意識改革が進むと、1970-80年代のフェミニスト運動をきっかけに、かつては男性に占有されていた職業が女性にも開かれた。それに伴い、女性形を求める声が高まった (矢頭 (2016), Cerquiglini (2019))。

職業名などの女性化に関する最初の公的な動きは、1979年7月28日、フランス語局 (l'Office de la langue française) により、ケベック州官報 *Gazette officielle du Québec* (no 30) で通知された。「肩書の女性化 (Féminisation des titres)」の中で、フランス語憲章116条項に従い「可能な限り女性形を使用する」ことが推奨され、以下のような方策が示された。

- ・既存の規則に従って女性形を新たに創出 *avocate, chirurgienne*
- ・通性名詞 (語尾が -e) を女性限定詞で限定 *une ministre*
- ・femme「(女性)」を付加 *femme-ingénieur*

これらの項目は、femme の付加を除き、2018年7月7日付ケベックフランス語局 (l'Office québécois de la langue française) の官報 *Gazette officielle du Québec* (no 27) でも依然として推奨事項とされた。具体的な女性形の作り方は、1991年の *Au féminin. Guide de féminisation des titres de fonction et des textes* (以下 AUFEMININ と表記)、2007年の *Avoir bon genre à l'écrit. Guide de rédaction épïcène* (以下 BONGENRE と表記)、2012年に作成され2020年に改定された *Autoformation sur la rédaction épïcène* (以下 AUTO と表記) に詳述され、かつ女性形の形態が具体的に示されている。また、オンライン辞書 *Le grand dictionnaire terminologique*⁶ においても公表されている。

3.2. 女性の可視化② 統語的女性化

ケベック州が推奨している「通性的文章法 (rédaction épïcène)」または「非性差別的的文章法 (rédaction non sexiste)」とは「男性形の総称用法を段階的になくしていく」(AUTO:4)ことを目的にしている。そのための一つの手法として男性形と女性形の二重語併記 (doublet) がある。1981年3月28日付官報「肩書の女性化及び求人案内表記 Féminisation des titres, Affichages des postes」で、呼称、肩書、呼び名に関して男性形と女性形の綴りをすべて省略せずに併記する完全二重語併記 (doublet complet) を提案した。さらに1991年のAUFEMININにおいても、完全二重語併記を推奨し、その書記法を細かく規定している⁷。また les ingénieur(e)s retraité(e)s, les étudiant/e/s inscrit/e/s, les chirurgien.ne.s, les directeur-trice-s のような省略を伴う省略二重語併記 (doublet abrégé) は避けることが推奨されている。その理由としては、読みづらく文法的慣用に反すること、また話し言葉で発音不能であることなどを挙げている。2018年7月7日付官報においても完全二重語併記が推奨されているが、2020年版のAUTOでは、完全二重語併記を推奨しつつも、スペースの関係で併記が困難な場合には省略二重語併記を使用しても構わないとしている。その際、読みやすさからカッコまたはカギカッコを推奨する一方で、大文字、中黒、ハイフンの使用は読みづらいとして推奨しない立場をとる。

3.3. 中立化

1981年3月の官報において personne (「人」) や citoyenneté (「市民権」) のような中性表現をはじめとする名詞の選択に関する提案がされ⁸、同時に不定詞、名詞文、受動態の使用など構文上の工夫が推奨された。2020年版AUTOにおいても、通性名詞の使用に加えて、無標 (non marquée) の形容詞⁹や構文選択の方法を説明している。たとえば、男性形の総称用法 conducteur (「運転者」) を使った (3) は、二人称人称代名詞 vous を使って (3') のように書くべきであると記されている。

(3) Le conducteur doit éteindre son téléphone.

「運転者は電話の電源をオフにしなければいけない」

(3') Si vous conduisez, vous devez éteindre votre téléphone.

「運転する際、あなたは電話の電源をオフにしなければいけない」

このような書法を習得するためには、ネイティブスピーカーでも学習が必要なので、AUTOには実践的な説明が多い。

2020年版AUTOの画期的な点としては、通性的書法の一つとしてノンバイナリーについて言及したことである。中性表現を使うことで「男女を指示しながらも、二重語併記と比べて直

接性が低く、かつ性別に縛られないノンバイナリーな対象を指示できる」とある。これまでは、女性をどう顕在化させるかが主たる目的だったのに対して、性の表示自体を問題にし始めた社会の変化がここに見て取れる。

4. スイス

4.1. 女性の可視化① 語彙的女性化

スイスでは、フェミニズム運動が1960年代に高まり、1971年女性参政権獲得、1981年6月14日国民投票60%の賛成票で男女同権が憲法で制定された (Engeli 2011 : 184-185)。それを受けて、女性が連邦議会、地方議会、警察など公共職に就くことが可能になった (Moreau 2007 : 15)。1986年、連邦参事会 (Conseil fédéral) により「可能な限り男女を差異化しない用語の選択」が推奨され (Matthey 2000 : 70)、女性化につながる言語運用をもたらすことになった。言語政策は通常州レベルで行われ (Elmiger (2008), (2011))、フランス語圏では、1988年にジュネーブ州、1992年にバレン州、1994年にジュラ州、1998年にフリブール州で、職業名を可能な限り女性化することを行政に課す法規 (règlement) が採択された (Cerquiglini (2019), Matthey (2000))。1991年 Moreau が編纂した *Dictionnaire féminin-masculin des professions, des titres et des fonctions* がジュネーブ州とジュラ州で刊行され、これをもとに1999年、1000を超える名詞を収録する *Le Nouveau Dictionnaire féminin-masculin* が出版された。また、2001年には *Guide romand d'aide à la rédaction administrative et législative épiciène* (以下 ROMAND と表記) が出版された。後者は連邦行政機関で非性差別的表現 (formulation non sexiste) の使用を目指したもので、職業名の女性形の形成法が細かく示されている。

スイスが一連の改革で目指したものは、女性の可視化というよりもむしろ性の平等であり、そのため女性形しか存在しなかった職業名には、フランス語の規則を適応させて男性形 (例 : le sage-homme 「助産夫」) を作ることも推奨された。

4.2. 女性の可視化② 統語的女性化

2000年、スイス連邦内閣 (Chancellerie fédérale) は、非性差別的表現法の原則を示した *Guide de formulation non sexiste des textes administratifs et législatifs de la Confédération* (以下 CHANCELLERIE と表記) において、完全二重語併記 (doublet intégral) を推奨した。その際、短い語→長い語の順番で表記すること、手紙の書き出しでは (5) のように女性→男性の順番にするなどの細かい指示を与えた。

- (4) Tout citoyen ou citoyenne ayant le droit de vote est éligible au Conseil national, au Conseil fédéral et au Tribunal fédéral.¹⁰

「投票権を有する全男性市民と女性市民は、国民議会、連邦参事会及び連邦裁判所での被選挙資格を持つ」

- (5) Chère lectrice, cher lecteur 「親愛なる女性読者、親愛なる男性読者」

省略二重語併記については、冠詞の併記、原則的な女性形の場合にはスラッシュを使う表記 (le/la président/e de la Confédération) を許容するが、変則的な女性形 (collaborateurs/trices) や、スラッシュ以外の記号 (les candidat-e-s) は避けるべきとしている。

2001年のROMANDではCHANCELLERIEとほぼ同じ手法が推奨されているが、省略二重語併記の場合にはスラッシュではなくハイフンを使用する (Contrôle des habitant-e-s) こと、完全二重語併記の場合にはアルファベット順に並べること、近接性の規則で一致をさせることを提案している。また官公庁で推奨される業務上の定型文や法律文が例示されている。

4.3. 中立化

スイスでは性差別を撤廃し男女を同等に扱うことが重視されているため、2000年のCHANCELLERIEにおいても談話レベルでの性の平等に約7割が割かれ、以下の中立化が推奨されている。

- ・ 中性表現 les droits de l'homme → les droits de la personne 「人権」
- ・ 集合名詞 les électeurs et électrices 「男性有権者と女性有権者」
 → l'électorat 「選挙民」
- ・ 人を指さない名詞 le juge 「男性裁判官」→ le tribunal 「法廷」
- ・ 文体の変更 Les utilisateurs ont librement accès au centre de documentation
 「利用者 (男性複数形) は文書保管所に自由に入館できる」
 → L'accès au centre de documentation est libre.
 「文書保管所の入館は自由」

2001年のROMANDも、CHANCELLERIEとほぼ同じ内容だが、通性名詞の複数形及び中立表現の使用を推奨している。

今日スイスでは、*redaction épïcène* のセミナーが大学で開講される (Moreau 2007: 17) ほか、ローザンヌ大学などではCHANCELLERIEをほぼ引き継いだ形で独自の要綱を作成し非性差別の啓発を行っている。

5. ベルギー

5.1. 女性の可視化① 語彙的女性化

1993年、フランス語共同体議会 (le Conseil de la Communauté française de Belgique) で、職業名の女性化を目指す政令 (décret) が可決され、法律、政令、通達などの公的文書、及び教育機関、生涯教育施設、求人案内などにおいて女性形を明記することが明確にされた (Dister 2004 : 313)。この政令はベルギー王立フランス語フランス文学アカデミー (Académie royale de Langue et Littérature française de Belgique) から承認され、1994年、Klinkenberg を議長とするフランス語高等議会 (le Conseil supérieur de la langue française) が *Mettre au féminin. Guide de féminisation des noms de métier, fonction, grade ou titre*¹¹ (以下 METTRE) を編纂し、職業名などの女性形に関して700の例を揚げ、以下を推奨した¹²。

- 既存の規則に従って女性形を新たに創出 *député/ députée, chercheur/ chercheuse*
- e, a, o の語尾を持つ男性名詞は女性限定詞で限定 *une impresario*

フランス語及び言語政策議会 (le Conseil de la langue française et de la politique linguistique) のもと、2014年の METTRE 第三版 (Moreau, Dister 編) では、1700あまりの職業名などの男性形・女性形をリストにしている。一眼で女性形とわかる形態を推奨しつつも、選択は使用者に完全に一任している。たとえば *un défenseur* の女性形は *une défenseuse* の方が好ましいが、*une défenseur* も認めている。

ベルギーのフランス語圏は、女性を排除しない (inclusion) 社会を目指す一方、法規などで可視化を強制しない「緩やかな説得 (persuasion douce)」(Klinkenberg : 2021 : 5-6) の形をとったが、1993年に始まった一連の動きの結果、職業などの名詞の女性化は非常に急速に進んだ。欧州議会選挙の際に使用された女性形を調査した Dister & Moreau (2006) によれば、1989年には女性形の使用が左思想のリベラル政党にほぼ限られていたのに対して、2004年には極右政党までが職業名の7割以上に対して新しい女性形を使用したとされている。

5.2. 女性の可視化② 統語的女性化

ベルギーは、女性形が男性形と同等に存在するテキストを奨励しているが、二重語併記には消極的である。2014年版の METTRE では、女性の存在が消えるおそれがある場合にのみ完全二重語併記 (doublet intégral) を推奨しているが、それ以外では、書きやすさと読みやすさを優先して男性形の総称用法を推奨している。とりわけ省略二重語併記は、カッコの使用 (*étudiant(e)*) が逆に女性の地位を貶めること、ハイフン使用 (*étudiant-e*) が複合語と混同させる危険性があるなどの理由から懐疑的な立場をとっている。この方針は、2020年の *Inclure*

sans exclure. Les bonnes pratiques de rédaction inclusive (以下 INCLURE) でもほぼ引き継がれている。「代替的实践 (pratique alternative)」と名付けられた書法は、社会における男女平等と女性の可視化を目指すとしながらも、男性形の総称用法を推奨し、とりわけ読み書きに負担を与える省略二重語併用を避けることが望ましいとしている。また、併記された名詞にかかる形容詞や過去分詞は男性複数形をとることを提案している。

他方、2007年5月10日付の法律で、公民を問わず昇進・雇用の男女機会均等が課されたため、求人・昇進関連の文書では女性の可視化が必要になり、三人称男性単数代名詞 *il* の使用禁止及び完全二重語併記が義務的になった。教育現場においても機会均等を示すために同様の措置が提言されている。(6) が推奨形式、(7) が回避すべき形式である。

(6) Engage informaticien ou informaticienne¹³

「男性情報処理技術者または女性情報処理技術者募集中」

(7) Engage informaticien (H/F)

「情報処理技術者(男/女)募集中」

5.3. 中立化

前述のように、ベルギーは、二重語併記よりも男性形の総称用法を推奨しているため、中性表現の使用には消極的である。ただし、文脈から男性のみを指すと誤解されるおそれがある場合には、通性名詞や集合名詞による言い換えを推奨している。たとえば、*les hommes de métier* (「職人」) は、*hommes* (「人・男」) を *gens* (「人々」) に言い換えた *les gens de métier* または *les professionnels* (「専門家」) と言う方が望ましい。

性の顕在化を避けるための受動態や行為名詞の使用に関しては、言語形式の選択が現実界の男女平等を実現しないという理由から2014年版の METTRE 及び2020年の INCLURE においても消極的な立場をとっている。

ノンバイナリーな「包括的新語 (néologismes “inclusifs”)」は、*iels, toustes, ceux*¹⁴ が INCLURE で登場しているが、「まだ認知度も低く、限られた領域でしか有効でない人工的造語であるため使用を避けるべきである」と明記されている。

6. フランス

6.1. 女性の可視化① 語彙的女性化

フランスでは、職業名詞などの女性化には様々な抵抗があり、公認されるまでにかかなりの時間を要した。最初の政府レベルの取り組みは、ケバックに遅れること4年、1983年1月24日付通達 (Circulaire) 「男女平等及び公職における共同参加に関する」において、男女双方に宛て

た求人広告では「女性形が慣用にそぐわない場合には職業名の後に「femmes et hommes」と明記すべきであり、また常にアルファベット順で男性形・女性形を明記すること」と規定されている¹⁵。それを受けて翌1984年3月1日、女性形作成に関わる用語委員会の設置が官報で正式に公表され、委員会は、職業名などの女性化に関する指針をまとめ、1986年3月11日付官報に明記したが、教育大臣と首相から反古にされ死文化する。

政府が再び職業名の女性化に着手したのは1998年3月6日付通達 *Circulaire du mars 1998 relative à la féminisation des noms de métier, fonction, grade ou titre* である。新たに招集された委員会は、Cerquiglioni 監修のもと、1999年130ページに及ぶ要綱 *Femme, j'écris ton nom... Guide d'aide à la féminisation des noms de métiers, titres, fonctions* (以下 FEMME と表記) を作成し、職業名に女性形を使用することが歴史的にも言語学的にも正当であることを論じた。また、総称用法では男性形を、特定用法では女性形を使うことが理にかなっているとした。

- (8) Dans cet hôpital, les fonctions de chirurgien (générique) sont occupées par une chirurgienne (spécifique). (FEMME 1999 : 39)

「この病院では外科医（総称）の職務は女性外科医（特定）が担っている」

1998年の政府の対応が果たした役割は大きかった。新聞5紙で使われる女性の職業名を調査した Fujimura (2005) は、1998年以降とりわけ政治や司法の肩書を示す女性形使用が急速に増したとしている。また Dister & Moreau (2006) によると、1989年の欧州議会選挙の際、左翼政党は女性候補者に対して既に女性形を多用していた¹⁶が、保守系政党ではその使用は1割未満だったのに対して、2004年の選挙では、左翼思想の政党では8～9割、極右政党の国民戦線さえ女性形の使用が3割を超えていたとしている。フランスでは女性形の使用は政界から始まった (Cerquiglioni (2019)) が、研究職などの職業名への適応はかなり遅れた (Fujimura (2005))。また、女性形使用への批判はアカデミー・フランセーズのみならず、政治家からも根強かった¹⁷。

2015年、首相の独立諮問機関である女男平等高等評議会 (Haut conseil à l'égalité entre les femmes et les hommes (HCE)¹⁸) が *Pour une communication publique sans stéréotype de sexe. Guide pratique* (以下 HCE) を公開した。2016年の改訂版では、巻末に女性形の一覧を示すとともに、職業などの名詞は指示対象の生物性と一致した名詞を使用するよう推奨している。

2019年、アカデミー・フランセーズは、*La féminisation des noms de métiers et de fonctions* を公布し、女性形の形成法など詳細を記載した上で、女性の社会的地位の変化に伴った言語変化は自然であることを理由に、初めて職業名詞の女性化を承認した。その一方で肩書、役職、官位の名詞は、職業とは異なり、対象と不可分な属性ではないので女性形にする必要はないと

論じ、現在に至るまで法的文書でこれらの名詞の女性形使用は認めない立場を取り続けている。

6.2. 女性の可視化② 統語的女性化

1999年の FEMME では、男性形の総称用法を使うことを推奨しているため、二重語併記については全く言及がない。他方、HCE (2016) では、男女双方を指示する場合には両性併記を推奨し、話し言葉では、可能な限りアルファベット順を、書き言葉ではアルファベット順の完全二重語併記 (les sénateurs et les sénatrices, les lycéennes et les lycéens) またはピリオドを使った省略二重語併記 (attaché.e, technicien.ne) を推奨している (ピリオドの使用は他の記号よりも読みやすいこと、PC での打ちやすさなどが利点であるとしている)。また HCE の簡易版 *Manuel d'écriture inclusive* (広告代理店 Mots-Clés 社が出版) の改訂版 Haddad (2019) では、包括書法 (écriture inclusive¹⁹) と称して、職業名の二重語併記を推奨しているが、省略二重語併記には中黒の使用を提案している (étudiant・e)。教育関係では2017年 Hatier 社が出した小学生 CE2 に向けた教科書²⁰で省略二重語併記 Les agriculteur.rice.s au fil du temps が使われて話題になった。

6.3. 中立化

HCE (2016) は、性の平等のためにコラムで以下の中性代名詞 (pronom neutre) が昨今創出されたことに言及している。

- il / elle → iel または ille
- ils / elles → iels または illes
- ceux / celles → ceuxx または ceulles

他方、2021年オンライン辞書 *Le Robert DICO EN LIGNE* に収録された iel と iels は、Cerquiglini を含め各方面から非難された²¹。Haddad (2019) では、完全二重語併記 directeurs et directrices のかわりに direction の使用を推奨している。

7. まとめ

フランス語圏4カ国での現行政府指針をまとめると表1のようになる。

表1 フランス語圏4地域の女性の可視化と中立化政策

	女性の可視化			中立化	
	語彙的女性化	統語的女性化			
	職業、肩書、役職、官位名詞的女性化	完全二重語併記	省略二重語併記	中性表現	iel など新語使用
ケベック州	推奨	推奨	例外的に推奨	推奨	言及なし
スイス	行政文書法規化	推奨	例外的に推奨	推奨	言及なし
ベルギー	推奨	求人、昇進に関する場合を除いて推奨しない	基本的に推奨しない	例外的に推奨するが懐疑的	使用不可
フランス	推奨 (AF ²² は職業名のみ推奨)	推奨 (AF 言及なし)	推奨 (AF 言及なし)	一部推奨 (AF 言及なし)	言及あり (AF 言及なし)

以上から、三つのことが明らかになった。一つには、語彙的女性化が概ね4カ国の公レベルで承認されているということである。職業名的女性形使用は最初に着手された案件で、新しい女性形の形態もほぼ統一されてきた。また女性形が中世でも使用されていたという歴史的事実も大きな補強材料となっている²³。二つ目には、性の平等を目指し、語彙的女性化のみならず統語的女性化と中立化を積極的に推進するケベックとスイスに対して、女性の可視化を主眼とし、語彙的女性化にはほぼとどまるベルギーとフランスに別れる点である。とりわけ前者2カ国は男性形の総称用法の排除を強く主張している。これは、女性の可視化が、ケベックとスイスではボトムアップの市民運動から始まったのに対して、ベルギーとフランスでは、女性政治家が始めたトップダウンの推進に起因するという社会背景の相違を反映しているのではないかと推察する。ケベックとスイスで中性表現の使用を強く推進するのは、社会運動の結果勝ち取った性差別撤廃を表記レベルでも実践することを目指しているからだろう。三つ目は、上記4カ国では、省略二重語併記及びielなどのノンバイナリーな新しい代名詞が公式には推奨されていない点である。

8. フランス語教育と女性の可視化

8.1. FLEの教科書

女性の可視化は「外国語としてのフランス語 (Français Langue Étrangère) FLE」に反映されているだろうか。ここでは、フランスのHachette社から出版されている初心者向け教科書 *Alter Ego 1* (2006)、*Le Nouveau Taxi ! 1* (2008)、*Agenda 1* (2011)、*Objectif Express 1*

(2013)、*Totem 1* (2014)、*Texto 1* (2016)、*Inspire 1* (2020)、*Explore 1* (2021) の8冊を語彙的女性化と統語的女性化の観点²⁴から観察した。表2の○は女性の可視化があったことを、－はそれがなかったことを示す。

表2 FLE 教科書と女性の可視化

	<i>Alter Ego 1</i> (2006)	<i>Le Nouveau Taxi ! 1</i> (2008)	<i>Agenda 1</i> (2011)	<i>Objectif Express 1</i> (2013)	<i>Totem 1</i> (2014)	<i>Texto 1</i> (2016)	<i>Inspire 1</i> (2020)	<i>Explore 1</i> (2021)
語彙的女性化	○	－	○	○	○	○	○	○
統語的女性化	○	－	－	○	－	－	○	○

女性形欠如とされてきた職業名の女性形が説明文、例文、練習問題で使用されていれば語彙的女性化ありと判断した。*Alter Ego 1* (2006) では、職業名として *couturier / couturière*, *boulangier / boulangère* が掲載されている。同様に *Objectif Express 1* (2013) では *ingénieur / ingénieure*, *Agenda 1* (2011) では、*avocat / avocate*, *Explore 1* (2021) では *un professeur / une professeure*, *un pompier / une pompière* が職業リストにある。*Inspire 1* (2020) では、*écrivain* と *poète* からそれぞれ *écrivaine* と *poétesse* を作らせる練習問題がある。*Totem 1* (2014) 及び *Texto 1* (2016) では *professeur* と *professeure* の双方が女性に対して使われていた。これは、*professeur* がいまだに通性名詞としてみなされていることの現れでもある²⁵。他方、*Le Nouveau Taxi ! 1* (2008) の職業紹介では「常に男性形 *le professeur*」との説明がある。2008年に出版された教科書に反映されていないのは、前述のように政界以外の職業名に適応が遅れたためと推察される。

統語的女性化に関しては、男女混成もしくは男女いずれかを指す場合に二重語併記を使っていればありと判断した²⁶。

- (9) *Échangez avec votre voisin(e)*. (*Alter Ego 1* (2006))
「隣の人とやりとりしなさい」
- (10) *Chères collègues, chers collègues* (*Objectif Express 1* (2013))
「親愛なる男性の同僚、親愛なる女性の同僚」
- (11) *Interrogez votre camarade. Il ou Elle répond*. (*Inspire 1* (2020))
「クラスメートに尋ねなさい。彼または彼女は答えます。」

- (12) Bonjour à toutes, et à tous. (*Explore 1* (2021))
 「こんにちは、女性の皆さんそして男性の皆さん」

Agenda 1 (2011) では、語彙的女性化は見られたが、男性形の総称用法が使われており、統語的女性化は考慮されていない。

- (13) J'écris à un ami et je présente deux collègues : un bon collègue et un mauvais collègue. (*Agenda 1* (2011))
 「友人に手紙を書いて、二人の同僚、つまり良い同僚と悪い同僚を紹介します」

省略二重語併記はほとんど使われていない。これは公式見解と一致するが、要項で推奨されていないカッコ (cf. (9)) の使用が散見される。統語的女性化は、少なくとも上記教科書では公の指針からはやや外れた形で実践されている。

8.2. 日本の教材

1989年から2022年まで日本で出版された大学生向け初級文法及び初級総合教材86冊を資料として語彙的女性化について調査を試みた。その結果、50冊は職業名などの女性形に言及しない、言及していても当該名詞が記載されていなかった。残りの36冊には全て professeur が記載されていたので、professeur の女性形 professeure の表記の有無を調べた。結果は以下の通りである。

① professeur のみ記載	15冊
② 男性形 professeur と女性形 professeure を両併記	9冊
③ 「女性に professeure を使うこともある」と明記	5冊
④ 「男性名詞 professeur を女性にも使用」と明記	5冊
⑤ 「男女どちらにも professeur を使う」と明記	1冊
⑥ 「女性には (femme-) professeur を使う」と明記	1冊

①は、限定詞を付記していないため professeur を通性名詞または男性名詞として捉えているのが不明だが、女性形 professeure を明記した教科書が14冊、⑥の (femme-) professeur の1冊を含めれば、約4割の教科書が有標な女性形を使うことを提案している。その中には2019年のアカデミーフランセーズによる職業名の女性形承認以前に出版された教科書もある。他方、承認以降の2020年に改訂されたにもかかわらず「professeur は男性形のみ」との記載に留まる

教科書も1冊あった。

新たな女性形 *professeure* はケベック生まれ²⁷だが、1999年フランス政府から認知され、以降フランスでも女性に対して通性名詞 *professeur* よりも頻繁に使われている²⁸。*professeure* を記載した教科書は、このような実際の運用を敏感に感じ取っていち早く取り入れたとも言えよう。日本では通常フランス本国で使われるフランス語を教えるため、フランスで流布した形態は、出自とは無関係に積極的に教育に取り入れられているように窺える。

9. おわりに

社会と意識の変化に起因したフランス語の語彙的女性化・統語的女性化・中立化を推進する政策は、女性の存在を言語的に可視化することに一定の成果を上げている。しかし、それはあくまで男女の生物性を前提としており、性の枠組みを超えたノンバイナリーを考慮する視点が他の欧米諸国と比較してフランス語圏ではやや乏しいように窺えた。民間レベルではノンバイナリーに関する指南書や新語が様々に提案されているが、公的には男性形の総称用法を排除する中立表現の推奨にとどまっているのが現状である。新しい女性形承認までにこれまで数多くの議論があったことや、全体として新語に対する拒絶反応が強い傾向を鑑みると、フランス語圏でノンバイナリーの新語が公に承認されるまでにはまだかなり長い時間がかかることが予想される。今後の動向を注視したい。

FLE では、教科書ごとに記述が異なると学習者が混乱する恐れがあるため、まず職業名の女性形を統一することが急務だろう。また、メールの書き出しなどで頻繁に使われるようになった完全二重語併記 *Bonjour à toutes, et à tous* を初級クラスで導入することも可能だろう。統語的女性化を実践する第一歩になると同時に、なぜ「こんにちは、女性の皆さんそして男性の皆さん」とくどい言い方をしてまで女性を言語的に明示する必要があるのかを議論する機会にもつながる。多くの学習者にとって単なる暗記項目だった女性形を、クォータ制、同性婚、LGBT など具体的な社会問題を考える糸口につなげることは、同性婚が俎上にさえ上がらず、女性の地位が世界100位以下で低迷する現在の日本では性の平等を考える意味でも必要なことではないだろうか。

参考文献

- Académie Française (2019) *La féminisation des noms de métiers et de fonctions*.
https://www.academie-francaise.fr/sites/academie-francaise.fr/files/rapport_feminisation_noms_de_metier_et_de_fonction.pdf (2022年5月31日閲覧)
- Becquer, Annie, Bernard Cerquiglini, Nicole Cholewka, Martine Coutier, Josette Frécher et Marie-Thérèse Mathieu (1999) *Femme, j'écris ton nom... Guide d'aide à la féminisation des noms de métiers, titres, grades et fonctions*, Paris, La Documentation française.
- Cerquiglini, Bernard (2019) *Le Ministre est enceinte. ou la grande querelle de la féminisation des noms*, Paris, Seuil.
- Chancellerie fédérale (2000) *Guide de formulation non sexiste des textes administratifs et législatifs de la Confédération*, Berne.
- Confédération suisse chancellerie fédérale (2000) *Guide de formulation non sexiste des textes administratifs et législatifs de la Confédération*.
<https://www.bk.admin.ch/bk/fr/home/documentation/langues/aides-redaction-et-traduction/guide-de-formulation-non-sexiste.html> (2022年5月31日閲覧)
- Conseil supérieur de la langue française (1994) *Mettre au féminin: Guide de féminisation des noms de métier, fonction, grade ou titre*. Bruxelles, Communauté française de Belgique.
- Dister, Anne (2004) « La féminisation des noms de métier, fonction, grade ou titre », *Journées internationales d'Analyse statistique des Données Textuelles*, Louvain.
<http://hdl.handle.net/2078.3/213051> (2022年5月31日閲覧)
- Dister, Anne & Marie-Louise Moreau (2006) « 'Dis-moi comment tu féminises, je te dirai pour qui tu votes.' Les dénominations des candidates dans les élections européennes de 1989 et de 2004 en Belgique et en France », *Langage et société*, no115, 5–45.
- Dister, A. & M.-L. Moreau (2020) *Inclure sans exclure. Les bonnes pratiques de rédaction inclusive*, Ministère de la Communauté française de Belgique, Direction de la langue française.
- Elmiger, Daniel (2008) *La féminisation de la langue en français et en allemand. Querelle. entre spécialistes et réception par le grand public*, Paris, Honoré Champion.
- Elmiger, Daniel (2011) « Féminisation de la langue française : une brève histoire des positions politiques et du positionnement linguistique » In A. Duchêne & C. Moïse (dirs), *Langage, genre et sexualité*, pp. 71–89, Québec, Nota bene. (Langue et pratiques discursives).
- Elmiger, Daniel & Verena Tunger (2014) « Les consignes de rédaction non sexistes. françaises et italiennes. Quelle attitude face à la généricité du masculin? », *Synergies Italie* n° 10 – 2014 p. 49–61.
- Engeli, Isabelle (2011) « L'évolution de la promotion de l'égalité entre les femmes et les hommes au sein de l'administration : le cas de l'administration fédérale suisse », *Politiques et management public* [En ligne], Vol 28/2.
<http://journals.openedition.org/pmp/4169> (2022年5月31日閲覧)
- Fujimura, Itsuko (2005) « La féminisation des noms de métiers et des titres dans la presse française (1988–2001) », *Mots. Les langages du politique*, 78/2005.

- Goosse, André & Marc Wilmet (1993), *À propos de la féminisation* [en ligne], Bruxelles, Académie royale de langue et de littérature françaises de Belgique.
www.arllfb.be (2022年5月31日閲覧)
- Guide de formulation non sexiste des textes administratifs et législatifs de la Confédération*, décembre 2000.
- Haddad, Rapaël (2019) *Manuel d'écriture inclusive*, Troisième édition, Mots-Clé.
<https://stimulusconference.ca/wp-content/uploads/2021/07/Gender-inclusive-language-in-French-a-manual.pdf> (2022年5月31日閲覧)
- Haut Conseil à l'égalité entre les femmes et les hommes (2016) *Pour une communication. publique sans stéréotype de sexe. Guide pratique*, La documentation française.
https://www.haut-conseil-egalite.gouv.fr/IMG/pdf/guide_pour_une_communication_publicque_sans_stereotype_de_sexe_vf_2016_11_02.compressed.pdf (2022年5月31日閲覧)
- Klinkenberg, Jean-Marie (2021) « L'incitation douce dans la mise en œuvre des politiques linguistiques. Le cas des usages non sexistes », *Actes Sémiotiques* [En ligne]. 2021, n° 124, 1–14.
<https://doi.org/10.25965/as.6692> (2022年5月31日閲覧)
- Légrifrance (1998) *Circulaire du mars 1998 relative à la féminisation des noms de métier, fonction, grade ou titre*.
<https://www.legifrance.gouv.fr/jorf/id/JORFTEXT000000556183> (2022年5月31日閲覧)
- Lenoble-Pinson, Michèle (2006) « Chercheuse? chercheur? chercheuse? Mettre au féminin les noms de métier et les titres de fonction », *Revue belge de philologie et d'histoire*, tome 84, fasc. 3, 2006. Langues et littératures modernes - Moderne taal en litterkunde. pp. 637–652.
- Matthey, Marinette (2000) « Féminisation du lexique et du discours en Suisse romande: un état des lieux », *Bulletin VALS-ASLA* 72, 63–79.
- Moreau, M.-L. & A. Dister (2014), *Mettre au féminin. Guide de féminisation des noms de métier, fonction, grade ou titre*. Fédération Wallonie-Bruxelles Culture.
- Moreau, Marie-Louise (2001), « La féminisation des textes : quels conseils à la politique. linguistique? », *Revue Parole*, n° 20, pp. 287–314.
- Moreau, Thérèse. (2001) *Écrire les genres. Guide romand d'aide à la rédaction administrative et législative épïcène*. Conférence latine des déléguées à l'égalité (éd.). Genève: État de Genève.
- Moreau, Thérèse. (2007) « Prière de ne pas épïcèner partout », *Nouvelles Questions Féministes*, 2007/3 Vol.26, 14–27.
- Office de la langue française (1979), Féminisation, Féminisation des titres, *Gazette. officielle du Québec*, (no30) 7394–7395, 28 juillet 1979.
<https://numerique.banq.qc.ca/patrimoine/details/52327/2360633> (2022年5月31日閲覧)
- Office de la langue française (1981), *Gazette officielle du Québec*, 28 mars 1981.
<https://numerique.banq.qc.ca/patrimoine/details/52327/46231> (2022年5月31日閲覧)
- Office de la langue française (1991) *Au féminin: Guide de féminisation des titres de. fonctions et des textes*, Québec, Les Publications du Québec.
<https://numerique.banq.qc.ca/patrimoine/details/52327/46231> (2022年5月31日閲覧)

- Office québécois de la langue française (2018) *Gazette officielle du Québec* (no 27) 7. juillet 2018.
<https://www.oqlf.gouv.qc.ca/ressources/bibliotheque/officialisation/avis-goq-feminisation-20180707.pdf> (2022年5月31日閲覧)
- Office québécois de la langue française (2020). *Autoformation sur la rédaction épïcène*
<https://www.oqlf.gouv.qc.ca/redaction-epicene/formation-redaction-epicene.pdf> (2022年5月31日閲覧)
- 矢頭典枝 (2016) 「ジェンダーの視点からみるケベック・フランス語の言語政策「通性的な書き方」の定着を目指して」『*Flambeau*』42 東京外国語大学フランス語研究室, 40-61.

注

1. 本稿では、通性名詞を「限定詞の使い分けのみで男性名詞にも女性名詞にもなりうる名詞」、中性表現を「男性と女性の交替が中和される表現」と定義する。中性表現には、通性名詞 (le / la responsable) に加えて、総称的な価値を持つ男性名詞 (l'individu) 及び女性名詞 (la personne)、男女同形の形容詞 (apte)、また人を指示しない名詞での言い換え (le juge → le tribunal) などが含まれる。(cf. Elmiger : 2008, AUTO)
2. iel は、主語人称代名詞三人称男性単数 il と女性単数 elle を合成した作られた新語。複数形は iels。
3. écrivaine に相当する écrivaine が14世紀に使われていたように、かつては職業名の女性形が数多く存在したが、多くは17世紀以降意味が変容したり、辞書から消えた。(Cerquiglini (2019))
4. Vaugelas, Claude Favre de (1647) *Remarques sur la langue françoise : utiles à ceux qui veulent bien parler et bien écrire*.
5. 職業名の女性形は社会的に低く見られる肩書には使われていた。directrice は「校長 directrice d'école」を指すことができても、「省庁の長 directrice de ministère」を指すことはできなかった。(Goose & Wilmet 1993 : 8)
6. <https://gdt.oqlf.gouv.qc.ca> (2022年5月31日参照)
7. 完全二重語併記を使用する場合、原則として冠詞や形容詞は繰り返すが、同一カテゴリーの成員にかかる場合は繰り返さなくてもいいとしている。
 - (a) Les candidates et candidats absents devront prendre un autre rendez-vous.
 男性と女性の語順は規定しないが、限定詞類を男性形にするために男性名詞の側に配置する近接性の規則を推奨している。
 - (b) Les policières et policiers sont invités à exprimer leurs commentaires sur cette question.
 - (c) Les nombreux techniciens et techniciennes de notre service sont tous candidats à ce poste.
8. 二重語併記 Êtes-vous citoyenne canadienne ou citoyen canadien ? よりも Êtes-vous de citoyenneté canadienne ? を推奨している。
9. たとえば、qualifié よりも通性語の apte を使うことを推奨している。
10. (4), (5) とともに CHANCELLERIE (2020 : 6) より引用。
11. 2005年と2014年に改定された。
12. Cf. Goose & Wilmet (1993 : 9-10).

13. (6), (7) とともに METTRE, p.22 より抜粋。
14. iels は注2で記した iel の複数形、toustes は「全て」を示す男性複数形 tous と女性複数形 toutes から成る合成語、celleux は「～の人々」を示す男性複数形 ceux と女性複数形 celles から成る合成語。
15. 1983年2月23日付官報 (Journal officiel) にて公開。なお、当時社会党の Yvette Roudy が女性権利大臣だった。この問題をめぐる1983年から1986年にかけての経緯は、本稿が参考にした Cerquiglini (2019) の第2章に詳しい。
16. 1989年の選挙で、緑の党は94.7%、社会党は66.7%が女性形を使用していた。(Dister & Moreau (2006 : 24))
17. 2014年10月6日国民議会で Sandrine Mazetier 氏が madame la Présidente と再三呼ぶように促したにもかかわらず madame le Président と呼び続けた Julien Aubert 議員に対して1378ユーロの罰金刑が下され、これに抗議する議長宛での公開書簡が Le Figaro 紙に掲載された。署名の中には、François Fillon 議員などの名前もあった (Cerquiglini (2019) 第6章)。
18. 2013年設立。72人の会員から構成される。
19. écriture inclusive は Mots-Clés 社が発案した表現で登録商標をとっている。
20. Cf. Magallan et Galilée *Questionner le monde* CE2 Ed. 2017 Livre élève, Hatier.
21. <https://dictionnaire.lerobert.com/definition/iel> (2022年5月31日閲覧)
22. 表2ではアカデミー・フランセーズを AF と表記。
23. Cf. FEMME, AUTO, *Le Nouveau Dictionnaire féminin-masculin*, Académie. Française (2019).
24. 調査対象を初級の教科書に限ったため、文体選択による中立化は今回調査しなかった。
25. *Le Robert DICO EN LIGNE* では professeur, professeure 共に女性形と記述されている。
26. (9) ~ (12) は学習者に二重語併記を实践させる練習問題ではなく、問題説明文または例文として使われている。
27. 男性形が -eur で終わる職業名の女性形は、動詞派生の名詞であれば -euse になる (coiffeur → coiffeuse) が、動詞派生でない場合は女性形が欠落していた。1994年以降ケベックで新しい接尾辞 -eure が生まれ、professeure, procureure など新しい女性形が流布するきっかけになった (Cerquiglini (2019) 第4章)。
28. Google Books Ngram Viewer で une professeure と une professeur の出現を調べたところ、2002年を境に前者が後者を凌ぎ、2019年には後者の4倍ほどの頻度になっている。
https://books.google.com/ngrams/graph?content=une+professeure%2Cune+professeur&year_start=1970&year_end=2019&corpus=30&smoothing=3 (2022年5月31日閲覧)